

# 保育闘争委員会ニュース 公的保育を守り拡充させよう

2015年  
9月16日(水)  
第130号

発行 = 東京自治労連保育闘争委員会 Tel.03-5940-7951 Fax.03-5940-7957 honbu@tokyo-jichiroren.org

## 全国保育合研

# 初めての非正規労働者シンポ、画期となる取り組みとして大きく成功

東京で開催された第47回全国保育合研、8月2日初めて非正規保育者をテーマに特別シンポジウム「非正規保育者の現実と保育の未来」が開催され、130人が参加しました。

東京学芸大講師の小尾晴美さんは、明星大垣内研究室と東京自治労連が共同で行った「東京都の公立保育園における非正規保育職員の実態調査報告」に基づき、非正規率が45%、年収200万円未満が83.5%、仕事のかけ持ちが21%など発言しました。

岡山市の公立保育園臨時保育士の藤本香織さんは、勤務が月曜から土曜日の週46時間のハードワーク、給料は日給制、1年ごとの更新で1ヶ月の空白期間において再任用で経験加算もなく年休の繰り越しもない。正規とほぼ同じ仕事内容で、仕事量は多くサービス残業も日常となっている。2011年に臨時保育士支部を結成、やっと正規と同じ忌引休暇、日額1年目50円、2年目以上100円の賃上げが取れた。必要臨時保育士は414人だが、現在225人、189人が欠員でパートで補填、労働強化になっている。臨時保育士の70%が「やりがいを感じ」ている。「やりがいをもって働ける職場環境」めざし活動すると発言。

墨田区の公立保育園の非常勤保育士で保育ユニオン書記長の三井文代さんは、東京は革新都政時代に非正規職員は「補助的職務」に限定された歴史があり全国と違うが、最近正規とほぼ変わらない役割を求められたり、責任を担わざるを得ない傾向。朝、夕、土曜日など働きにくい時間帯の勤務、条件が原因で、非正規の保育士が不足。

「非正規保育者調査」では、「たった3時間の勤務でも濃い内容」「(非正規を)下にしている」「清掃や雑務ばかりやらされている」「何の説明もないまま指示されるだけ」「仕事に見合わない処遇」などの声が多くあった。低賃金の労働者増えれば、安上がり保育になり、保育の質を守ることは



出来ない。組合活動の意義を伝え、仲間を増やす取り組みを続けると発言。

京都市の民間保育園で働く福保労京都地本非正規部会の谷村友香さんは、時給 900 円で東京のもんじゃ焼き屋の高校生バイトより低い。仕事内容は正規の保育士と同じで、個別計画も立てるし、この給料では厳しい。命を預かる職としてこのままでいいのかと発言。

コーディネイターで明星大教授の垣内国光さんは、職業賃金ランキングで保育士は 129 職中 107 位、准看護師、歯科衛生士、警備員より低い。任期が曖昧な脱法的な任用が横行し官製ワーキングプアだ。公務員の定員抑制、公立保育所運営費の国庫負担廃止によって急増、安価な女性労働力の徹底活用をめざすアベノミクスと子育て支援 3 法によって保育労働力需要が高まり非正規化が加速した。新制度では、同年齢児で同じ保育時間なら同じ公定価格で正規職員である必要なく非正規雇用が増える仕組みになっている。保育の質の低下は、非正規化が要因となっているが、非正規職員が悪いのではなく制度が間違っている。この問題は保育にかかわるみんなの問題と提起。

自治労連保育部会長（東京の保育副部会長）の高橋光幸さんが、いま労働組合の役割が重要になってくる。この問題は、非正規保育者の労働組合活動への参画がカギを握っていると熱くアピールしました。

フロアからも活発な発言があるなど、盛り上がったシンポジウムになりました。

安上がり保育、保育の市場化の流れの中で、非正規化が保育にとって重大な課題・問題であることの認識が広がり、マスコミも報道するようになってきたもとの、ひとつの画期となるシンポジウムとなりました。

## 世田谷区職労・保育園分会

# 緊急学習会「安保法制＝戦争法案阻止 平和と憲法を守ろう」

緊迫する国会情勢を踏まえ、保育園分会は緊急に 8 月 20 日（木）に梅丘パークホールで、区職労の藤本書記長を講師に迎えて平和学習会を開催しました。夏季の職員体制の中ではありましたが、分会執行部からの各園 2 名の参加の呼びかけに対し、50 園から 94 名が参加し組合員の関心の高さと、日頃からの行動提起に対する各園で積極的に取り組む姿勢が示されました。

学習会では講師から、戦争法案（安保体制）の危険な中身や、戦争法案は誰のためのものなのか、さらに安倍政権の「戦争する国」の行きつく先は何なのか、など歴史的経過を踏まえて詳しい説明があり、最後に「憲法 9 条を前面に、9 条の徹底で平和な日本と世界を」「国民的共同を広げ、歴史を逆戻りさせない運動を」との呼びかけがありました。

若手組合員も多く参加し「一般の報道では知らされていない内容がたくさんあった」「知っているようで知らない戦後の日米関係が分かった」「子どもたちの未来のために私も何かしなければいけないと感じた」など、多くの感想が寄せられました。

保育園分会は「武器より花を・平和な未来を子どもたちに」をスローガンにして長く運動を続けてきました。これからも、平和と子どもたちを守る取り組みをさらに強めていきます。

**【傘下の組織や保育関係者に配信・配布してください。】**